

小倉山倶楽部 活動開始



5月23日に会員の皆さんと美濃市小倉公園の森林整備を行いました。今後も6月27日、7月25日と第4日曜日に実施しますので、ご参加下さい。

日本の山が荒れているのは、木材が利用されなくなったからではありません。住宅においても約半数が木造住宅であり、集成材や合板、家具のボード類、紙の原

木材利用の現状

初めまして。私は杣の杜学舎の人達と同じ、森林文化アカデミーの第1期卒業生です。杣の杜学舎の正会員でもありませんが、専門は木造建築設計で、木材を使用する立場にあります。持続的な山の管理の第一歩は生産者と消費者の相互理解です。今回は木材の消費者の現状の問題点や今後の展望についてお話ししたいと思います。

地域の木材を使うこと

NPO法人 WOOD AC
代表理事 滝口 泰弘

料など、実感しにくいですが、様々なところで、私達はかなりの量の木材を消費しています。例えば割箸は全国で年間250億膳消費されています。問題なのは、原料となる木材を大量に輸入していることです。我が国の木材自給率は2割を下回るまでに至っています。世界ではここ10年間で日本の国土の約2.5倍の面積の森林が減少している一方で、我が国の山の木材の蓄積量は年々増加しているのです。様々な理由が関係していますが、自国にふんだんに山があるのに、海外の木材ばかりを使用している現状は、どう考えても筋の通らない話です。

何故、輸入材の利用が増えたのか、住宅では特に住まい手の価値観の変化が大きいです。かつての住宅は、2代、3代と住み続け、ライフスタイルの中にしっかりと家のメンテナンス機能が組み込まれていました。ところが、核家族化、共働き、などの社会条件やファーストフードに代表される時間の短縮社会となると、自宅に対する価値観は一変します。極力手のかからない家が望まれ、家に居る時間も少なく、オートメーション的な家ほど理想とされます。住宅を購入することに対してあまり時間がかけられず、住宅展示場で、デパートで買い物をするように購入し、飽きたら捨てる。日本の住宅の平均寿命は20年を下回っているの

そまの杜



新しき杣人たちの羅針盤

第6号

NPO法人 杣の杜 学舎
〒501-3781 美濃市片知 1109-4
森づくり片知支援センター内
TEL & FAX 0575-37-2115
URL: <http://www.somanomori.or.jp/>
e-mail: info@somanomori.or.jp

も現状です。このような消費社会に対して登場するのがプレファブ住宅です。短期間で大量に建てられるように、部品として工場で生産し、あとは組み立てるだけ。構造だけではなく、外壁やアルミサッシ、キッチンや浴室なども部品化が望まれ、今の住宅は全て工場生産の部品によつてできているといつてもいいくらいです。構造材には、価格の面から依然として木材が利用されていますが、ここで要求されるのが、部品の精度です。木材は生き物であるため、多少の伸び縮みがあり、かつてはこれらの癖をうまくいかして家を作る大工さんが多くいたそうですが、現在の住宅はビスとボルトさえ使えば誰でも建てられるとまでは言いませんが、ほぼ似たような状況です。この意義は様々にあるので否定はできませんが、日本の千差万別な手間暇かけて育ててきた木が受け入れられにくい現状であることは確かです。

新しい木材住宅リバイバル

しかしながら、近年では、国産材や地域材を使用した家作りが、じわじわと甦りつつあります。この原因もまた、消費者の価値観の変化です。人により様々ではありますが、幾つかあげてみたいと思います。

1. 住宅への安心感

シックハウスに関する法律が建築基準法に盛り込まれたことが大きいですが、工場生産やメンテナンスフリーを優先した結果、家中が化学物質に汚染され、時には死にまで至るとい

大きな社会問題を呼び起こしています。自然素材住宅という言葉がどこでも聞かれるようになりましたが、木材も化学物質が一切でないというわけではありませんが、昔ながらの自然素材住宅が切望されています。また、もう一つ大きな問題が欠陥住宅です。構造は生活者の命を守る最も重要なことにも関わらず、一部の良識のない生産者によつて起こつてしまつ悲劇です。阪神大震災の時に木造住宅は弱いという風潮が広まりましたが、その後の調査の結果、木造住宅だからではなく、設計や施工ミスが大半の原因であることが分かりました。木造住宅でも地震に強い家は十分作れます。構造材料が何なのか、よりも作り手がしっかりと建ててくれるかがより重要であることが認識されつつあります。何よりもまず、住宅への安心を、という消費者の声です。

2. 顔の見えるお付き合い

食品では特に顕著ですが、生産者の顔が見えるものを消費する傾向が高まっています。一つには、品物へのこだわりがありますが、やはりここでも大きな理由は安全性です。牛肉、鶏肉と話題を呼びましたが、木材も、どこの国からどのようなルートで来るのか分からないものは不安が募ります。かつては輸送船の中で大量な薬剤漬けで運ばれてくることもあったそうです。また、材料だけではなく、長くお付き合いができる作り手との出会いは、その後の家の耐久性をも左右します。コンビニではなく、会話をしながら商品を購入するようなライフス

タイルは、今後より望まれていくものです。

3. 銘木よりも本物を

木造住宅、和室というと、高級な木材を使用した高いもの、というイメージが依然としてあります。特に若年層を中心にこれも変化しつつあります。木の色合いや目の柄などよりもまずは本物の木を使いたい、という消費者は確実に増えています。メーカーハウスが建ち始めて数十年経ち、リフォームブームが到来しました。築20〜30年程度のお宅を拝見すると、奇麗に木目がプリントされた床や建具から、そのプリントが剥がれ落ち、無残な姿を見せています。メンテナンスフリーだったはずなのに、使えば使うほど悪くなる。こんな思いの人は多くいるはず。無垢の床板や建具は、汚れてもかんで一皮むけば、また新品同様の色と香りが出てきます。また、使えば使うほど味わいが出るのも無垢材の利点です。化学物質建材は一度汚くなると捨てるしかありません。住宅のリフォーム時期を迎えて、より長期間の価値を見出すことの必要性に、皆が気づき始めています。新築時の奇麗さよりも本物の木材を、節があつても気にならない、節があつたほうが木材っぽい、そんな消費者が増えていることは、木材生産者にとつても明るいことではないでしょうか。

地域の木材を使うこと

私達は、木材の消費者の立場として、特に地域の木材にこだわって活動をしています。エコマテリアルとしての地域材、地産地消の家作り

など、まだ始まったばかりですが、以下の2つの組織によって、様々なことにチャレンジしていきますので今後ともよろしくお願い致します。

【NPO法人 WOOD AC】

今年の4月から新しく設立したNPOです。森林文化アカデミー卒業生の木造建築専門スタッフにより、地域材の需要拡大を目指す様々な活動をしていきます。地域材を使った家作りの設計や、作り手の人達への技術や情報支援、一般の勉強会やイベントなどを行っています。今年是一般向けの「岐阜木材探検団」という木材の生産から消費までの流れを見学会を通してレポートしようという企画を行います。興味のある方は左記事務局までご連絡下さい。



〒501-3722 岐阜県美濃市常盤町
2275-1 番地 A C クラフト内
TEL : 0575-35-0259
FAX : 0575-35-3599
MAIL : info@wood-ac.or.jp
URL : 準備中

【ウッドマイルズ研究会】

私達の使用している木材はどこから来ているのか。はるか地球の裏側から運ばれてくる輸送エネルギーは住宅建設に使用されるエネルギーに匹敵する。使用木材量に輸送距離を掛け合わせた「ウッドマイルズ」という指標を作り、「近く」の山の木の環境科学的な検証をし、地

域の木材需要の活性化に寄与することが、活動の目的です。昨年6月に発足した全国規模の研究会です。誰でも簡単に入会でき、HPの情報やニュースレターを受けることができます。まずは、ホームページをご覧ください。研究会の事務局はNPO法人 WOOD ACにて引き受けています。

MAIL : info@woodmiles.net
URL : http://woodmiles.net



梅雨の季節に入りました。今年も何か雨の多い年になりそうな最近の天候です。基本的に我々の仕事は外での作業が多い為、これからの季節、雨もつらいですが、一方で自然界の様々なものに気をつける季節でもあります。

スズメバチやムカデ、マムシなどの痛い系の生物、ヤブカ、ブユ、ヤマビルなど痒い系の生物と、我々にとっては出会いたくない輩が自然の中に各種存在しています。痛い系の生物は、こちらから仕掛けなければ、大抵、大丈夫ですが、後者は向こうからどんどん寄って来るので、作業中はうっとうしい存在です。

さらに個人的にはこの季節非常につらいのが、ヤマウルシによるかぶれです。特に昨年は岐阜・各務原の山火事跡地での作業において随分、かぶれに苦しみました。ヤマウルシは日当たりの良い所を好む陽樹である為、山火事跡地は絶好の繁殖地なのです。よって、岐阜・各務原の山火事跡地でも、そこかしこにヤマウルシが生えておりました。それを避けては仕事にならないので、かぶれたら、かぶれた時だと聞き直って作業していたところ、案の定、かぶれによる痒みに襲われた日が何日もありました。ヤマウルシに関しては人によってかぶれない人もいますが、私は今の所、高い確率でヒツトします。また、すぐかぶれずに潜伏期間を置いて発症したり、体調によってもかぶれが出たり、出なかつたりもするようです。

今年もヤマウルシと付き合わねばならない季節がやってきました。なんとか体の方が慣れてくれないかなと望み薄ながら、秘かに願っている今日この頃です。また、よい対処療法があれば、どなたか教えて下さい。お願い致します。

(杣の杜 学舎 山中 巨)



こいつはヤマウルシより怖いツタウルシ、みなさん、ご注意ください。

楽しい畑仕事

今、私、畑仕事にはまっています。今春、スタッフの所君から畑地の提供を受けて、「自分の食べるものくらいは自分で作りたい。」「せめて、野菜くらいは日本で作られたものを食べたい。」「という欲求を少しでも満たすため、畑をいじっています。

ひとつの畑を柚の杜 学舎スタッフ4人で分割して、それぞれの世話で作物を育てていますが、所有者によって個性が出てきます。こまめに世話をするもの、ほったらかし気味のもの、あえて「誰が」とは言いません。

私はというと、今のところけっこうまじめに世話をしています。熱しやすく冷めやすい性格ですから。作った作物は、レタス・サニーレタス、ジャガイモ（収穫済み）、キャベツ（そろそろ収穫できる）、下仁田ネギ、唐辛子、スイカ 以上が所くん家の畑です。実は、所くん家の畑だけは止まらず、美濃市の市民農園も借りちゃいました。こちらは、全てタネから育てています。作物は、トウモロコシ、大根（半分虫のえさになった）、エダマメ、キュウリ、ナス、ニンジン 以上市民農園の野菜です。まだまだ、あります。家のベランダにプランターが5個。ピーマン、ナス、トマト、キュウリがベランダで収穫できる日も近いはずです。

野菜づくりが面白いのは、木と違って成長が早いことです。一週間で劇的に変化します。毎日、相手にしている山の木とは全く時間のスケールが違います。気の長い「木の時間」とチョッと目を離すとすぐに変化を見せる「野菜の時間」どっちが私の生に合っているのでしょうか。多分、私の配偶者は、「どうせ、野菜づくりも、いつものことですぐ飽きるだろう。」と思っているに違いありません。

今日も、プランターの野菜に水やりをして、山へ出かける私でした。

（柚の杜 学舎 鈴木 章）

活動報告

【二〇〇四年三月～二〇〇四年六月】

三月二十一日（日）「岐阜・山火事跡地 森林の再生植樹活動」（主催・イオン環境財団など）の企画・運営。今回は、子供さんの参加が多く、みんな楽しそうに植樹していました。

三月二十五日（水）美濃市森林景観調査事業・第三回委員会にて、調査結果を報告。

三月二十九日（月）片知生涯学習センターにて、「子ども炭やき教室」を実施。

四月二十三日（金）森林文化アカデミー熊崎学長とともに、今年度柚の杜学舎で活動を予定している「無償森林診断断活動」について、中濃森林組合を訪問し、活動の趣旨説明など打合せ。

四月二十六日（月）森林科学研究所より、樹幹解析試料採取作業を受託し、実施。

四月三十日（金）山火事跡地緑の再生委員会より「緑の再生見直し事業」を受託し、

山火事跡地の植生回復等の調査を実施。

五月五日（水）「もみじ谷 自然観察会」を実施。

五月六日（木）小倉公園整備事業として、桜の樹勢回復のための土壌改良作業を実施。

五月二十日（木）林業機械化協会より、森林資源モニタリング調査データ地理解析事業」を受託。

五月二十日（木）岐阜県 協働事業説明会に出席。

（財）イオン環境財団と山火事跡地の植栽地のメンテナン活動について打合せ。

五月二十三日（日）小倉公園にて、本年度の第一回「小倉山俱樂部」を実施。

六月一日（火）各務原市イオン環境財団による山火事跡地再生活動地の植栽木メンテナン作業として、下刈り、除伐、育成木マーキング作業を実施中。

【今後の予定】

六月二十六日（土）片知生涯学習センター「子ども創造館」事業として、地元小中学生を対象に「動物の不思議を探ろう」を実施。

六月二十七日（日）美濃市小倉公園にて小倉山俱樂部を実施。現在参加者募集中です。詳しくは電話、メールにて小泉まで。

編集後記

現場にはつらい雨の季節、でもカンカン照りよりは体が楽だったりします。でも濡れ鼠は気分がさえない。明日はどんな天気かな？